

2. 墓地について

(1) 定住意向について

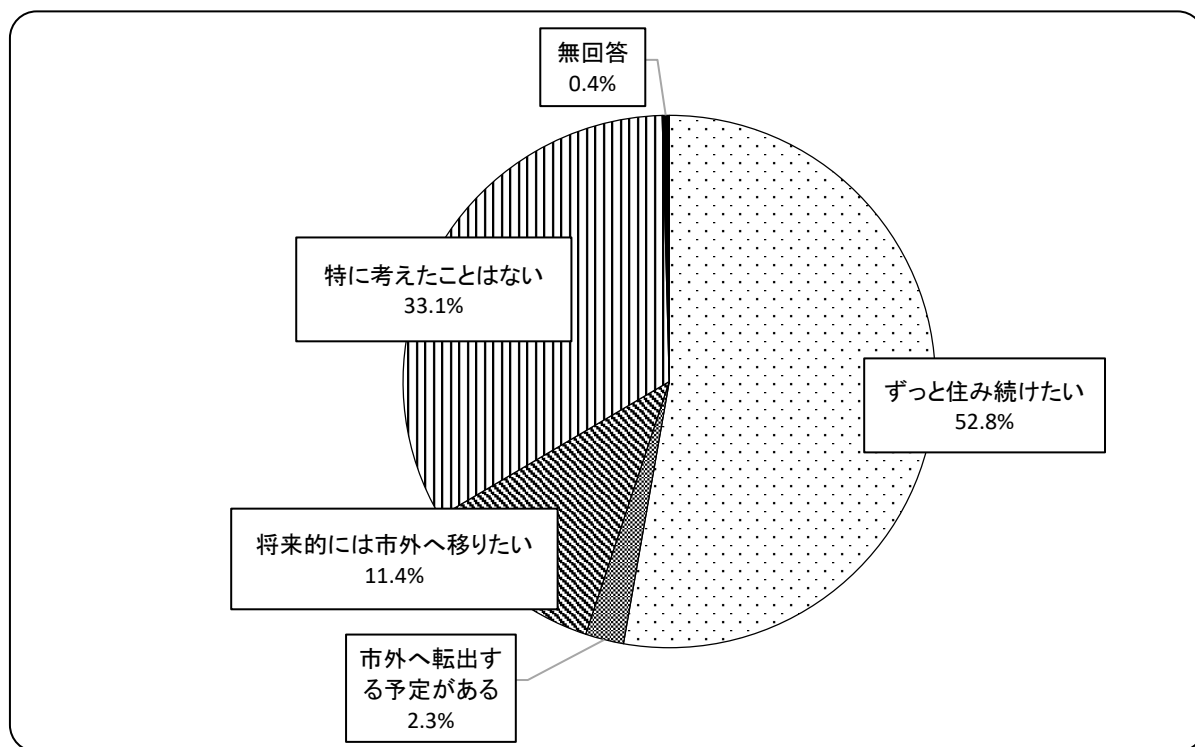
《堺市での定住意向》

問 27. あなたは堺市に住み続けたいとお考えですか。

【選択は1つ】

「ずっと住み続けたい」が 52.8%と最も割合が高い。定住意向のある方が半数を超える結果であった。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	ずっと住み続けたい	249	52.8%
2	市外へ転出する予定がある	11	2.3%
3	将来的には市外へ移りたい	54	11.4%
4	特に考えたことはない	156	33.1%
	無回答	2	0.4%
	計 (回答総数)	472	100.0%



(2) お墓との関わり方について

《お墓参りの頻度》

問 28. あなたは年間に何回ぐらいお墓参りをしますか。

【選択は1つ】

「年に2～3回」が27.1%と、平成24年度調査（27.7%）と同程度だが、「年に1回」は17.2%と平成24年度調査（20.7%）から3.5%減少、「年に4～5回」は14.6%と平成24年度調査（20.1%）から5.5%減少している。一方で、「ほとんどしない」（19.7%）と「お墓参りはしない」（7.6%）を合わせた割合（27.3%）は平成24年度調査時の「ほとんどしない」（17.2%）と比べて10.1%増加しており、全体として、お墓参りの頻度が減少していることが読み取れる。*

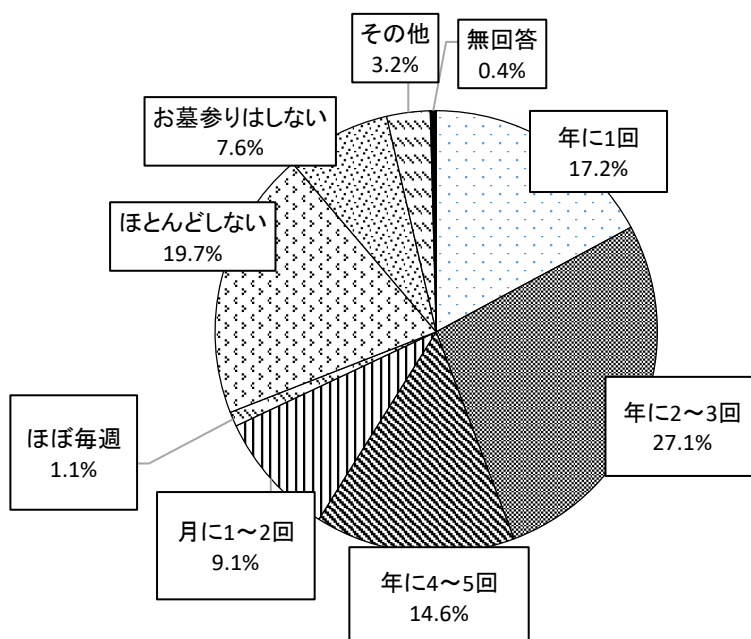
※「お墓参りはしない」の項目は今回追加した。平成24年度調査時には「お墓参りはしない」の項目がないため、今回調査の「ほとんどしない」、「お墓参りはしない」を合わせた割合と平成24年時の「ほとんどしない」の割合を比較している。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	年に1回	81	17.2%
2	年に2～3回	128	27.1%
3	年に4～5回	69	14.6%
4	月に1～2回	43	9.1%
5	ほぼ毎週	5	1.1%
6	ほぼ毎日	0	0.0%
7	ほとんどしない	93	19.7%
8	お墓参りはしない	36	7.6%
9	その他	15	3.2%
	無回答	2	0.4%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[9 その他]

【主な回答】

- お墓を持っていない。



《お墓参りについての認識》

問 29. 一般的にお墓参りとはどのような行為だと思いますか。

【選択は1つ】

「遺族のおこなうべき務め」が41.1%と最も割合が高く、平成24年度調査時(47.4%)から6.3%減少している。次点の「家族の年中行事の一つ」は26.9%と、平成24年度調査時(22.0%)から4.9%増加している。

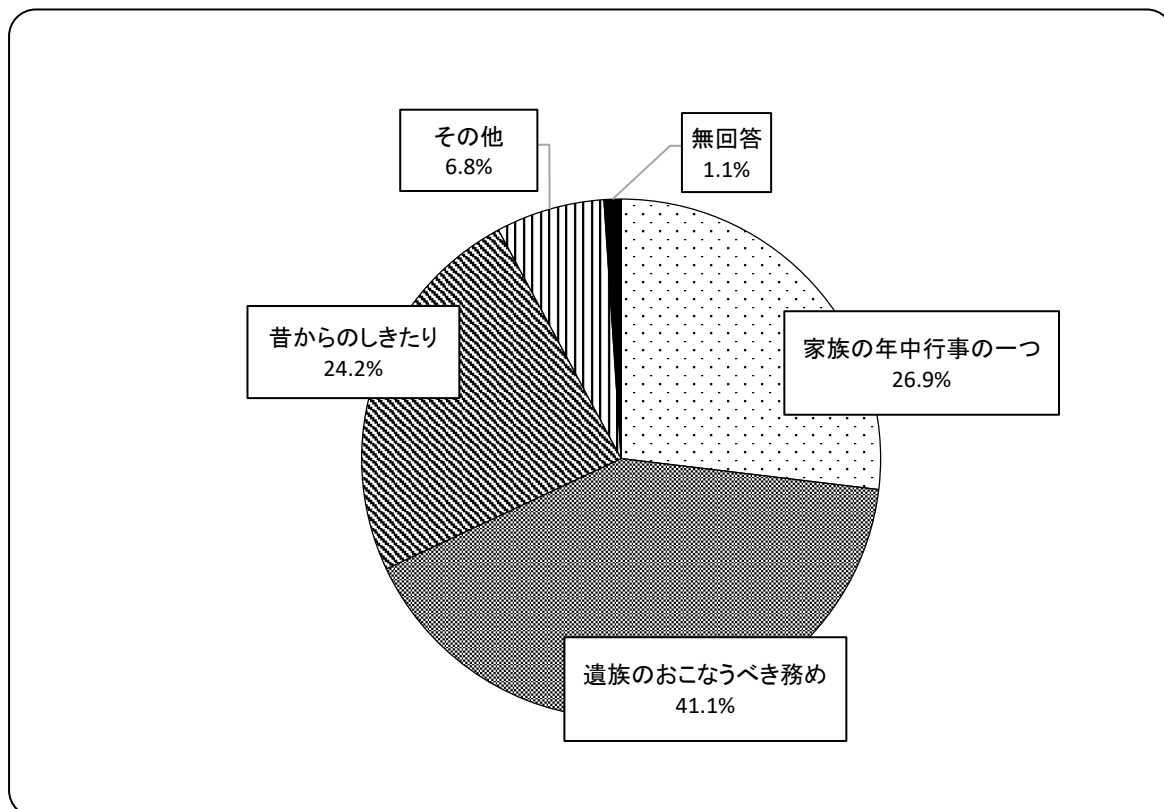
このことから、年中行事の一つとしての位置づけがやや強くなり、遺族の義務とする考えがやや薄れていることが読み取れる。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	家族の年中行事の一つ	127	26.9%
2	遺族のおこなうべき務め	194	41.1%
3	昔からのしきたり	114	24.2%
4	その他	32	6.8%
	無回答	5	1.1%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[4 その他]

【主な回答】

- 故人をしのぶための行為
- 故人への挨拶、近況報告
- 何も思わない、無駄



《お墓についての認識》

問 30. あなたにとって、お墓とはどのようなところですか。

【複数回答可：2 つまで】

回答数は「遺骨を納めるところ」が 244 人と最も多く、次いで「故人をしのぶところ」が 216 人、「先祖をまつところ」が 203 人となっている。

平成 24 年度調査時も上記 3 項目が上位を占めていたが、回答数が多い順に「先祖をまつところ」(311 人)、「故人をしのぶところ」(295 人)、「遺骨を納めるところ」(247 人)となっている。

このことから故人を思い慕う、先祖への供養といった心情的なものより、遺骨を納める「場所」としての意識が強くなっていることが読み取れる。

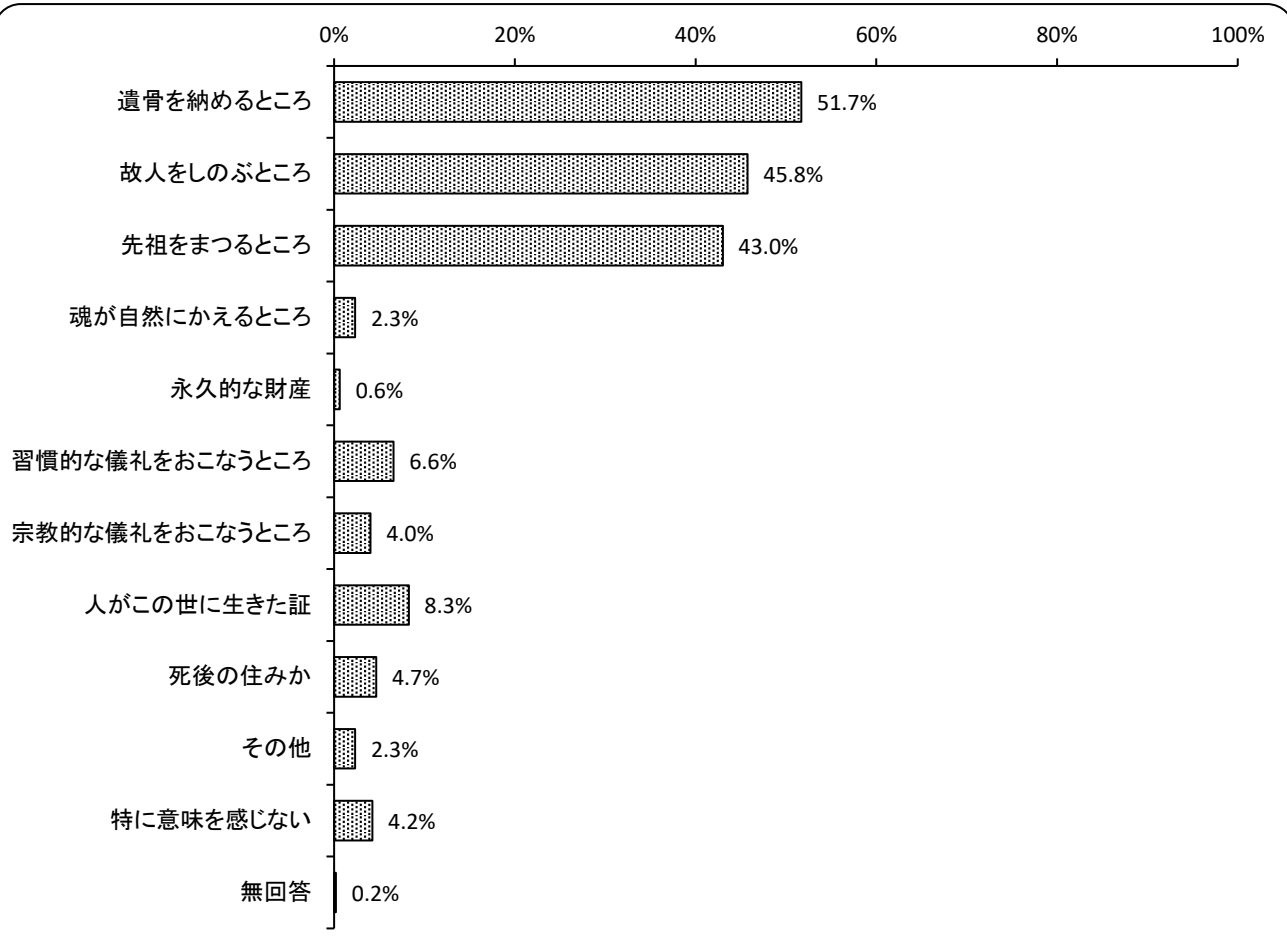
※平成 24 年度調査時の回答選択数は「いくつでも」であり、今回調査では「2 つまで」とした。回答数に制限を設けることにより、より重要視されている項目を抽出した。したがって、構成比での単純比較ができないことから、回答数順により意識動向を比較した。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	遺骨を納めるところ	244	51.7%
2	故人をしのぶところ	216	45.8%
3	先祖をまつところ	203	43.0%
4	魂が自然にかえるところ	11	2.3%
5	永久的な財産	3	0.6%
6	習慣的な儀礼をおこなうところ	31	6.6%
7	宗教的な儀礼をおこなうところ	19	4.0%
8	人がこの世に生きた証	39	8.3%
9	死後の住みか	22	4.7%
10	その他	11	2.3%
11	特に意味を感じない	20	4.2%
	無回答	1	0.2%
	計 (回答総数)	820	173.7%

[10 その他]

【主な回答】

- 先祖などに感謝をする場所
- 心が落ち着く場所



《お墓に対する考え》

問 31. あなたはご自身のお墓（または遺骨の取り扱い）について考えたことがありますか。

【選択は1つ】

「考えたことはあるが、はっきりしたイメージはない」が40.7%と最も割合が高く、平成24年度調査時（49.9%）から9.2%減少している。次点の「真剣に考えたことがあり、具体的なイメージがある」は33.7%と、平成24年度調査時（25.9%）から7.8%増加している。

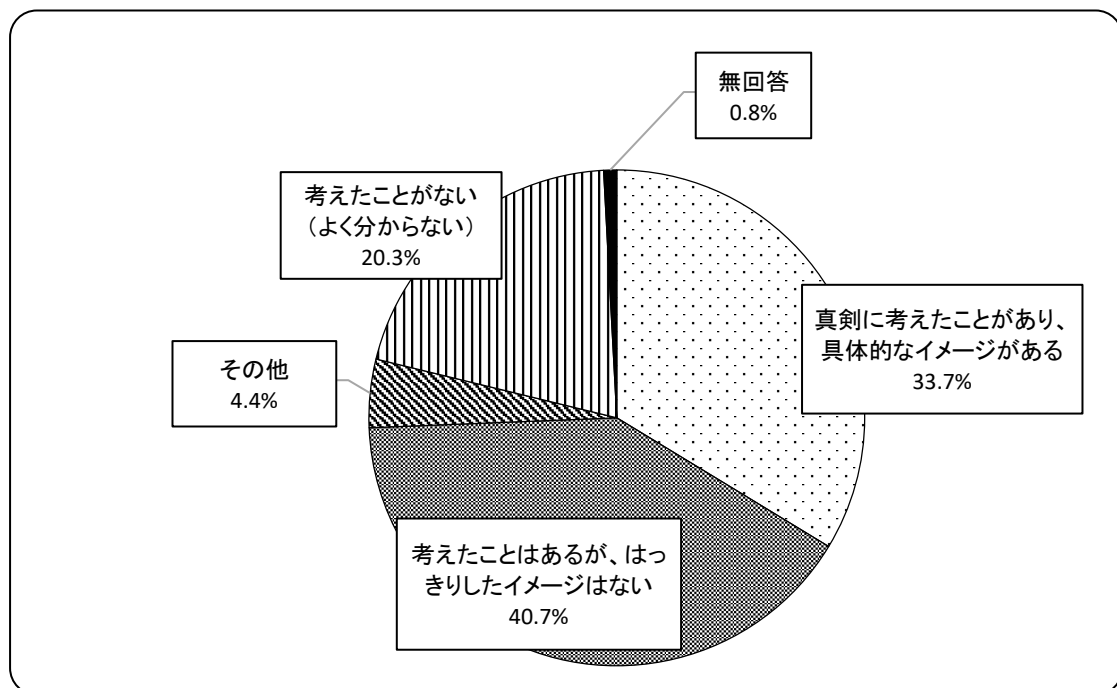
この2項目を合わせた割合は同水準（H24：75.8%⇒R2：74.4%）のため、お墓について考える人の割合に変化はないが、より具体的に考える人が増えたことが読み取れる。

	選択項目（N=472）	回答数	構成比
1	真剣に考えたことがあり、具体的なイメージがある	159	33.7%
2	考えたことはあるが、はっきりしたイメージはない	192	40.7%
3	その他	21	4.4%
4	考えたことがない（よく分からない）	96	20.3%
	無回答	4	0.8%
	計（回答総数）	472	100.0%

[3 その他]

【主な回答】

- お墓はいらない。
- 散骨したい。
- すでに所有している。



《ご自身の遺骨の取り扱い》

問 32. ご自身の死後の遺骨の扱い方について、どのように希望しますか。

【選択は1つ】

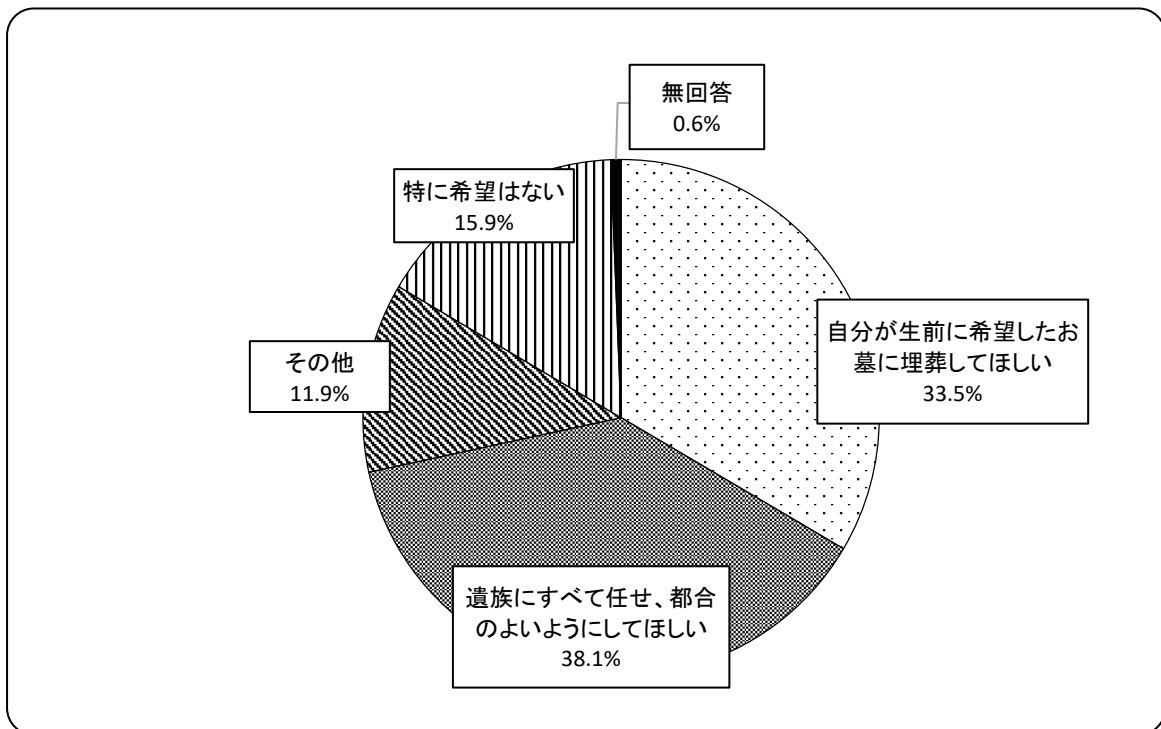
「遺族にすべて任せ、都合のよいようにしてほしい」が38.1%と最も割合が高く、平成24年度調査時（35.5%）から2.6%増加している。次点の「自分が生前に希望したお墓に埋葬してほしい」は33.5%と、平成24年度調査時（36.1%）から2.6%減少し、順位も逆転していることから、自身の意向よりも遺族の都合を優先する傾向が大きくなっていることが読み取れる。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	自分が生前に希望したお墓に埋葬してほしい	158	33.5%
2	遺族にすべて任せ、都合のよいようにしてほしい	180	38.1%
3	その他	56	11.9%
4	特に希望はない	75	15.9%
	無回答	3	0.6%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[3 その他]

【主な回答】

- 散骨、自然葬
- 寺に納骨、永代供養
- 遺族に負担をかけたくない。
- 墓は不要



《家族の遺骨の取り扱い》

問 33. あなたは、ご家族の遺骨の取り扱いについては、どのようにお考えですか。 【選択は1つ】

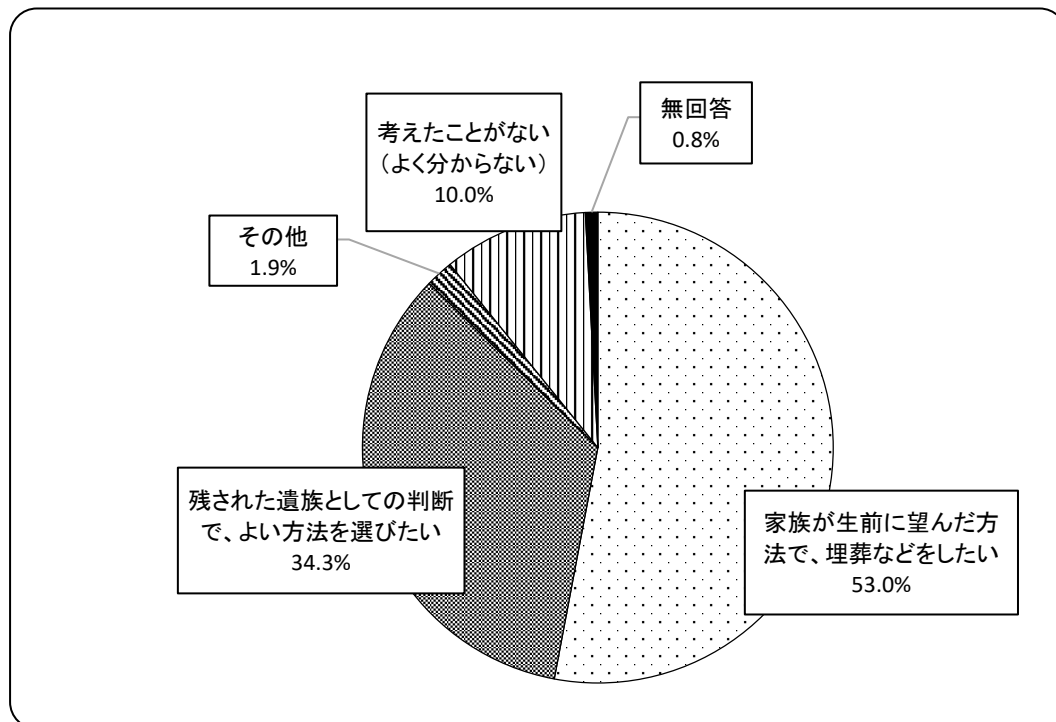
「家族が生前に望んだ方法で、埋葬などをしてほしい」が53.0%と最も割合が高く、平成24年度調査時(57.9%)から4.9%減少している。次点の「残された遺族としての判断で、よい方法を選びたい」は34.3%と、平成24年度調査時(32.4%)から1.9%増加している。依然として埋葬される本人の意向を尊重するという割合が半数以上を占めるものの、その割合は減少しており、遺族側の意向が重視される割合がやや増加していることが読み取れる。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	家族が生前に望んだ方法で、埋葬などをしてほしい	250	53.0%
2	残された遺族としての判断で、よい方法を選びたい	162	34.3%
3	その他	9	1.9%
4	考えたことがない (よく分からない)	47	10.0%
	無回答	4	0.8%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[3 その他]

【主な回答】

- 永代供養
- 寺に納骨
- 先祖代々の墓に入れる。
- 墓は不要



(3) あなた（家族）のお墓について

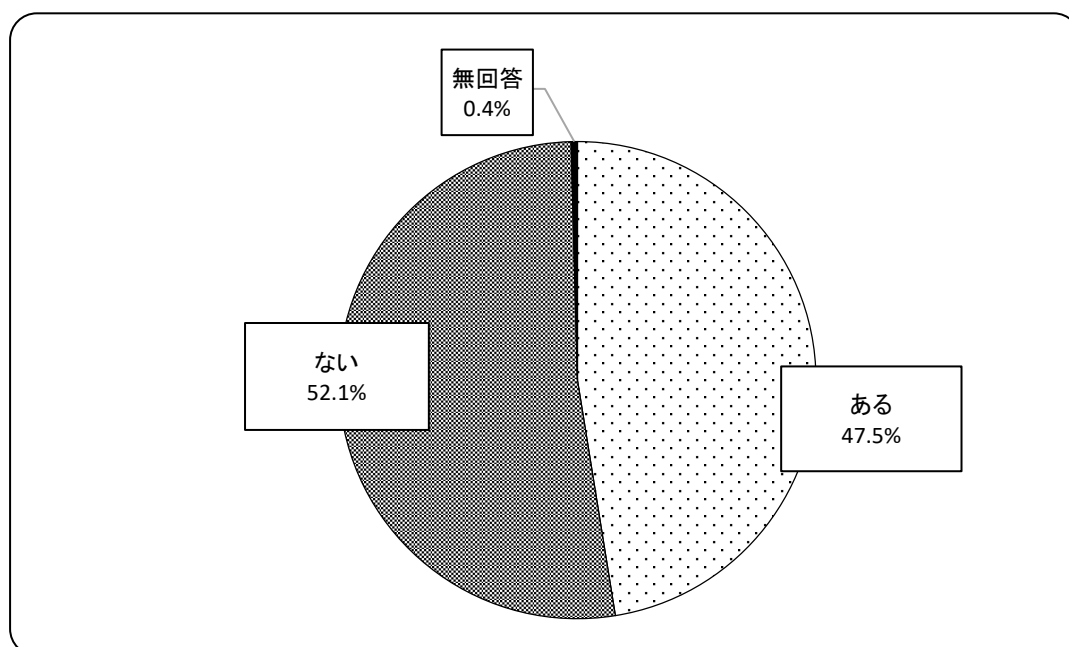
《利用できるお墓の有無》

問 34. あなたは死後、遺骨を納められるお墓をお持ちですか。

【選択は1つ】

遺骨を納められるお墓が「ある」人が47.5%、「ない」人が52.1%であった。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	ある	224	47.5%
2	ない	246	52.1%
	無回答	2	0.4%
	計 (回答総数)	472	100.0%



《お墓の所在地》

問 35. 問 34 で「1 ある」と回答された方に伺います。そのお墓はどこにありますか。 【選択は1つ】

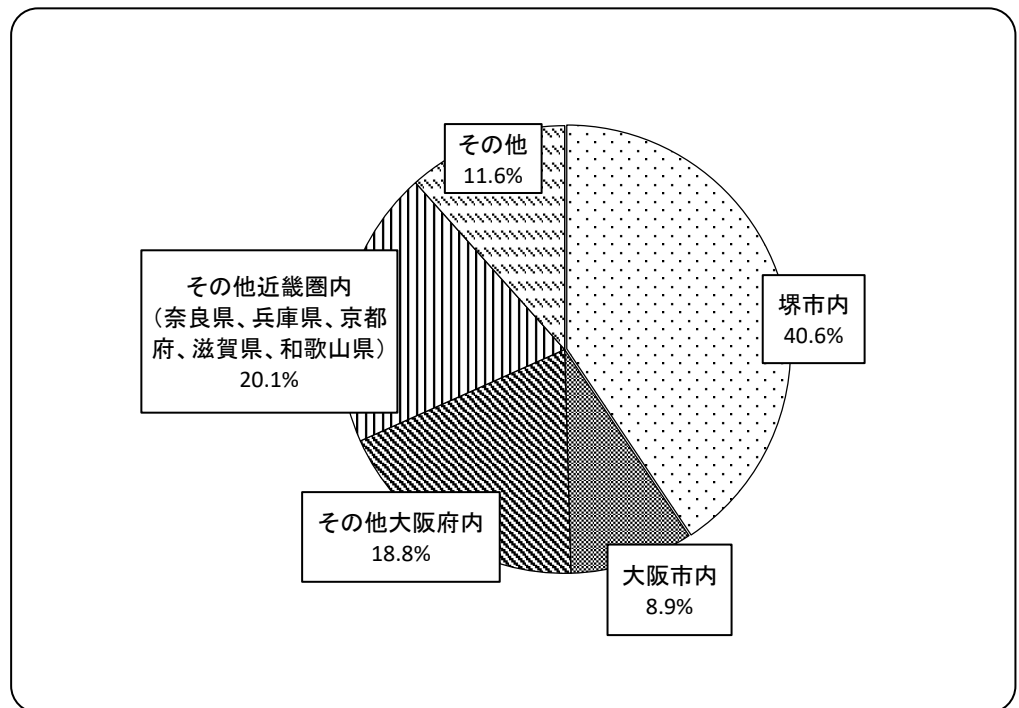
「堺市内」が40.6%と最も割合が高く、次いで「その他近畿圏内（奈良県、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県）」が20.1%であった。大阪府内（「堺市内」（40.6%）、「大阪市内」（8.9%）、「その他大阪府内」（18.8%）を合わせた割合）は68.3%であり、約70%が大阪府内にお墓を所有している。

	選択項目（N=224）	回答数	構成比
1	堺市内	91	40.6%
2	大阪市内	20	8.9%
3	その他大阪府内	42	18.8%
4	その他近畿圏内（奈良県、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県）	45	20.1%
5	その他	26	11.6%
	計（回答総数）	224	100.0%

[5 その他]

【主な回答】

- 北海道地方：1件
- 東北地方：1件
- 関東地方：2件
- 中部地方：6件
- 中国地方：3件
- 四国地方：5件
- 九州地方：7件
- その他：1件



《お墓の種類》

問 36. 問 34 で「1 ある」と回答された方に伺います。

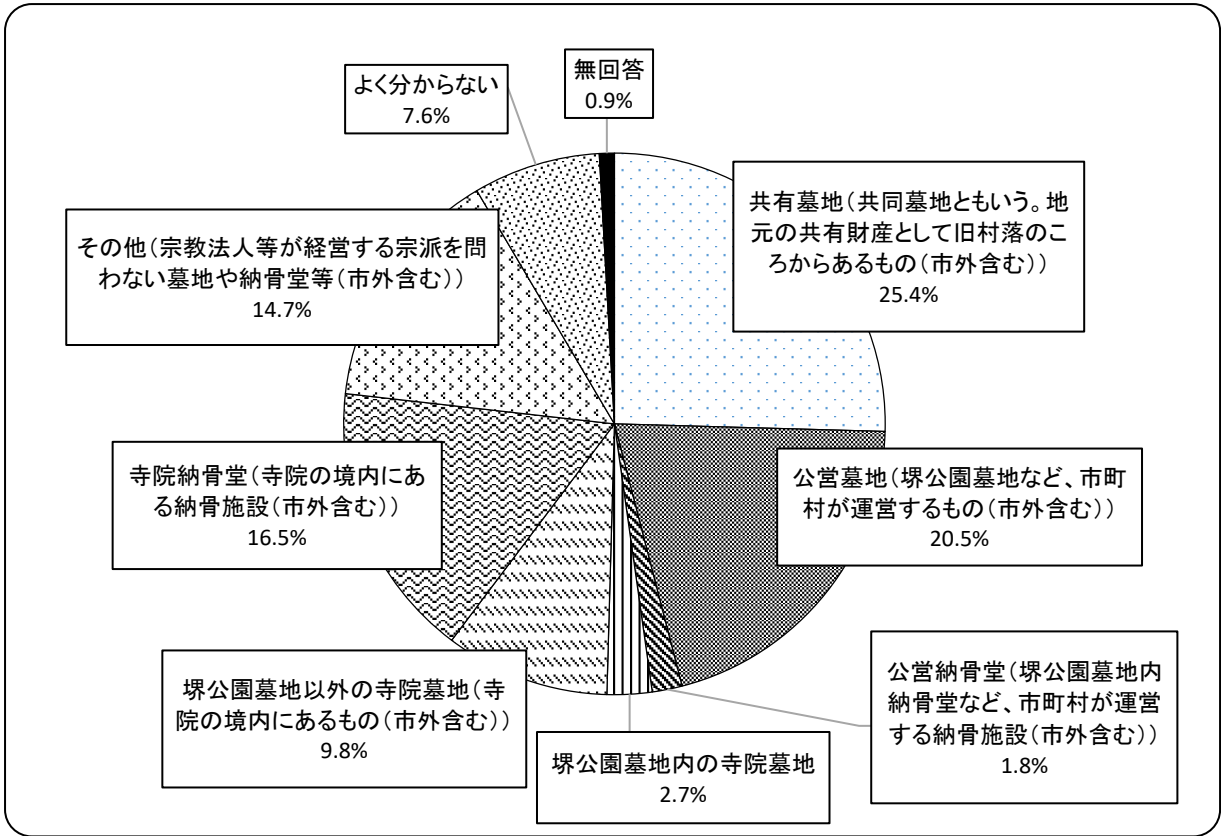
そのお墓は、次のどの種類にあたりますか。

【選択は1つ】

平成 24 年度調査時に比べて「共有墓地（共同墓地ともいう。地元の共有財産として旧村落のころからあるもの（市外含む）」（H24:29.4%→R2:25.4% 4.0%減）、「公営墓地（堺公園墓地など、市町村が運営するもの（市外含む）」（H24:25.3%→R2:20.5% 4.8%減）、「堺公園墓地以外の寺院墓地（寺院の境内にあるもの（市外含む）」（H24:21.2%→R2:9.8% 11.4%減）の占める割合は目立って減少しており、一方で、「寺院納骨堂（寺院の境内にある納骨施設（市外含む）」（H24:3.3%→R2:16.5% 13.2%増）、「その他（宗教法人等が経営する宗派を問わない墓地や納骨堂等（市外含む）」（H24:8.6%→R2:14.7% 6.1%増）は増加している。

このことから寺院内ではお墓の需要が墓地から納骨堂に移っていることがうかがえる。

	選択項目（N=224）	回答数	構成比
1	共有墓地（共同墓地ともいう。地元の共有財産として旧村落のころからあるもの（市外含む）	57	25.4%
2	公営墓地（堺公園墓地など、市町村が運営するもの（市外含む）	46	20.5%
3	公営納骨堂（堺公園墓地内納骨堂など、市町村が運営する納骨施設（市外含む）	4	1.8%
4	堺公園墓地内の寺院墓地	6	2.7%
5	堺公園墓地以外の寺院墓地（寺院の境内にあるもの（市外含む）	22	9.8%
6	寺院納骨堂（寺院の境内にある納骨施設（市外含む）	37	16.5%
7	その他（宗教法人等が経営する宗派を問わない墓地や納骨堂等（市外含む）	33	14.7%
8	よく分からない	17	7.6%
	無回答	2	0.9%
	計（回答総数）	224	100.0%



《お墓の所有方法》

問 37. 問 34 で「1 ある」と回答された方に伺います。

そのお墓は、次のどれにあたりますか。

【選択は1つ】

「先祖（家）のお墓」が 35.7%と最も割合が高く平成 24 年度調査時（37.6%）から 1.9%減少、次いで「自分の親が取得したお墓」が 27.2%と平成 24 年度調査時（21.6%）から 5.6%増加している。

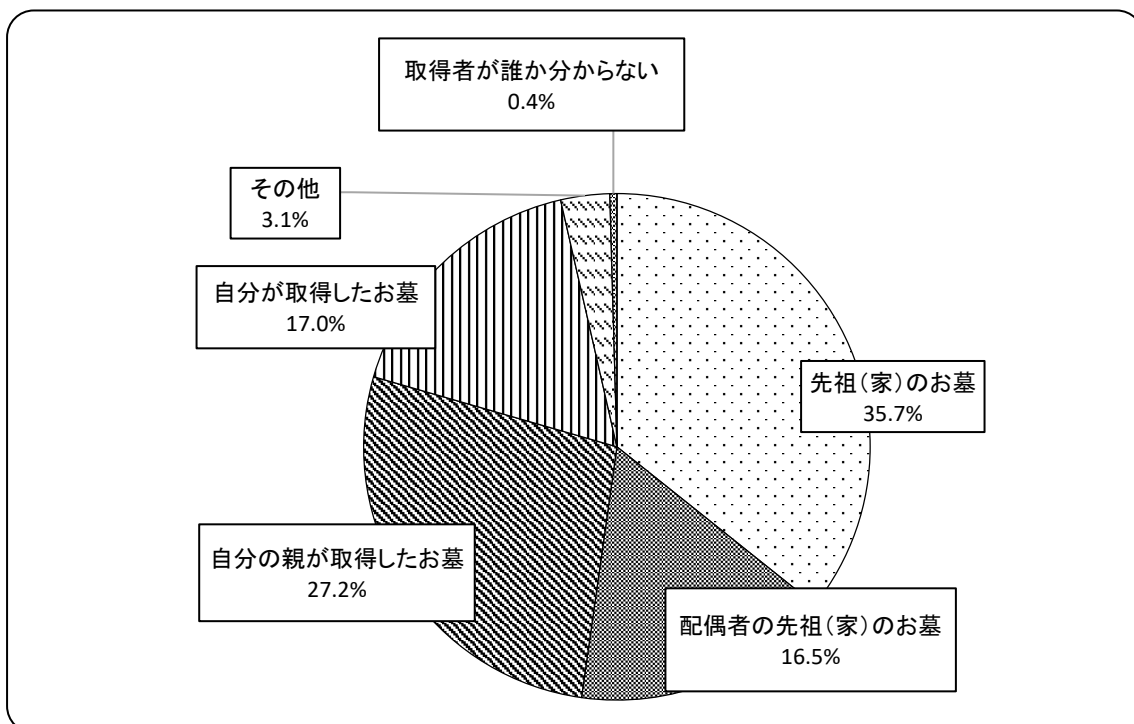
1 親等以内が取得した墓の割合（選択肢 3 と選択肢 4 の合計）が 44.2%と、平成 24 年度調査時（36.3%）から 7.9%増加している。

	選択項目（N=224）	回答数	構成比
1	先祖（家）のお墓	80	35.7%
2	配偶者の先祖（家）のお墓	37	16.5%
3	自分の親が取得したお墓	61	27.2%
4	自分が取得したお墓	38	17.0%
5	その他	7	3.1%
6	取得者が誰か分からない	1	0.4%
	計（回答総数）	224	100.0%

[5 その他]

【主な回答】

- 配偶者の親のお墓
- 教会所有のお墓



《お墓に対する不満点》

問 38. 問 34 で「1 ある」と回答された方に伺います。そのお墓に対して不満に思っていることを教えてください。
【複数回答可：2 つまで】

「特に不満は感じていない」が 59.8%と最も割合が高い一方、不満がある方（「特に不満は感じていない」以外）の中では、「遠くて不便である」が 28.6%と最も割合が高く、平成 24 年度調査時（25.7%）から 2.9%増加している。

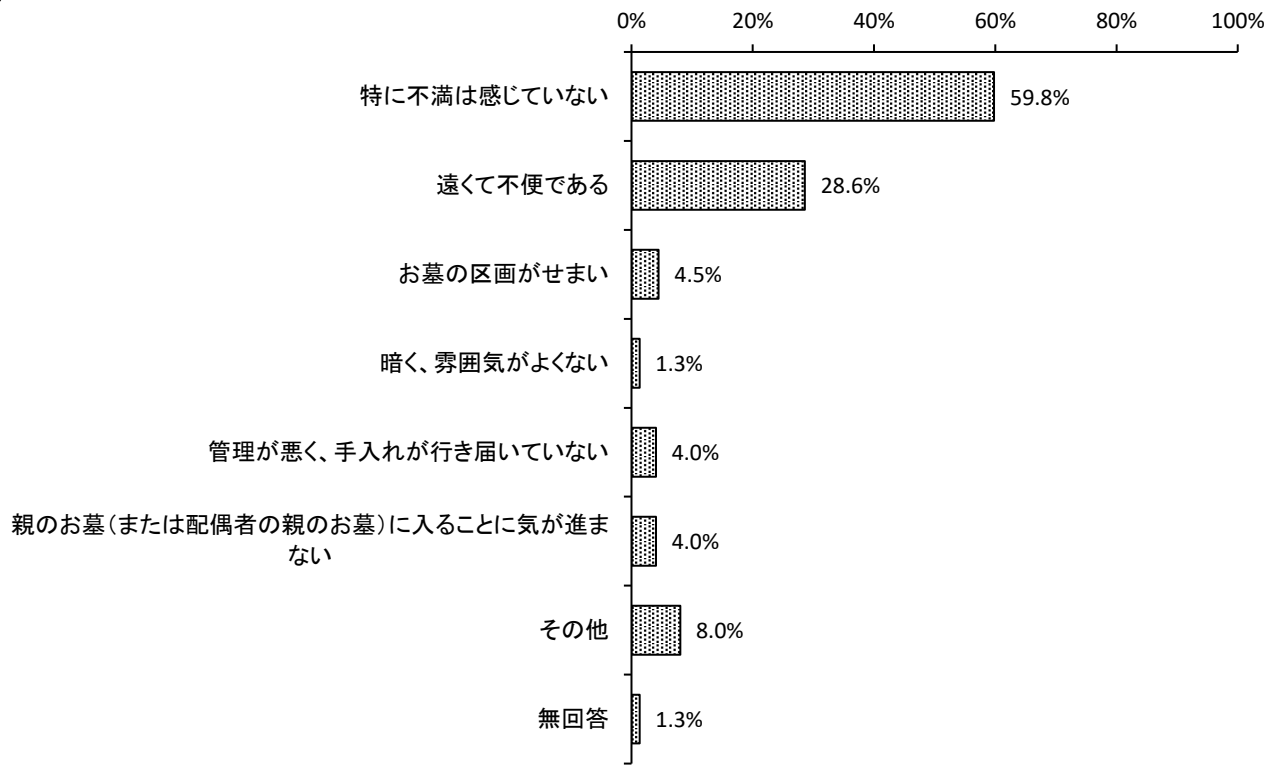
また、「その他」の意見でも駐車場の狭さ、アクセスなどが複数挙げられていることから、駐車場を含む墓地へのアクセスに対する不満度が上がっていることが読み取れる。

	選択項目（N=224）	回答数	構成比
1	特に不満は感じていない	134	59.8%
2	遠くて不便である	64	28.6%
3	お墓の区画がせまい	10	4.5%
4	暗く、雰囲気がよくない	3	1.3%
5	管理が悪く、手入れが行き届いていない	9	4.0%
6	親のお墓（または配偶者の親のお墓）に入ることに気が進まない	9	4.0%
7	その他	18	8.0%
	無回答	3	1.3%
	計（回答総数）	250	111.6%

[7 その他]

【主な回答】

- 駐車場（少ない、狭い）、アクセス
- 費用（管理費、お寺のお布施等）
- 区画が不整形
- 緑がない
- 維持管理が大変



《将来のお墓の維持管理に対する不安》

問 39. 問 34 で「1 ある」と回答された方に伺います。

そのお墓の将来の維持管理に対する思いは、次のどれにあたりますか。

【複数回答可：2 つまで】

「子どもや子孫への維持管理の負担について、不安を感じている」が 50.9%と最も割合が高く、次いで「特に不安は感じない」が 27.2%であった。

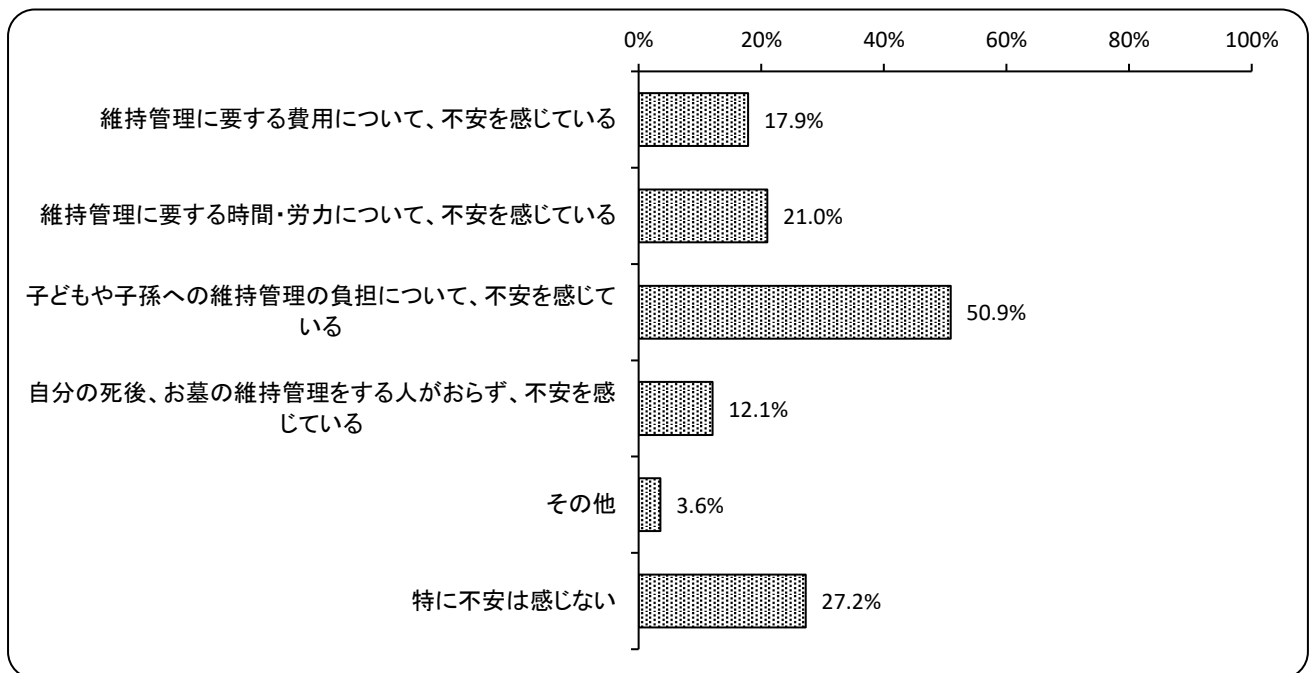
「子どもや子孫への維持管理の負担について、不安を感じている」(50.9%)と「自分の死後、お墓の維持管理をする人がおらず、不安を感じている」(12.1%)を合わせた割合は 63.0%となっており、人口減少、少子高齢化の進行が要因の一つであると考えられる。

	選択項目 (N=224)	回答数	構成比
1	維持管理に要する費用について、不安を感じている	40	17.9%
2	維持管理に要する時間・労力について、不安を感じている	47	21.0%
3	子どもや子孫への維持管理の負担について、不安を感じている	114	50.9%
4	自分の死後、お墓の維持管理をする人がおらず、不安を感じている	27	12.1%
5	その他	8	3.6%
6	特に不安は感じない	61	27.2%
	計 (回答総数)	297	132.6%

[5 その他]

【主な回答】

- 次代の維持管理を誰が行うか不明
- 配偶者の家系の墓が嫌



《お墓の今後》

問 40. 問 34 で「1 ある」と回答された方に伺います。そのお墓の今後について、どのような意向をお持ちですか。 【選択は1つ】

「そのまま維持したい」が67.4%と最も割合が高く、次いで「合葬式墓地以外の永代供養墓（自身での維持管理が不要なお墓）に移りたい」が16.5%であった。

改葬を望む人（選択肢2～4と回答した方）のうち「合葬式墓地以外の永代供養墓（自身での維持管理が不要なお墓）に移りたい」と回答した方は、70%を越えており、また問39で選択肢1～5と回答した約70%の方が将来の維持管理に何らかの不安を抱いていることから、維持管理が不要なお墓への改葬を望む割合が高くなっていると考えられる。

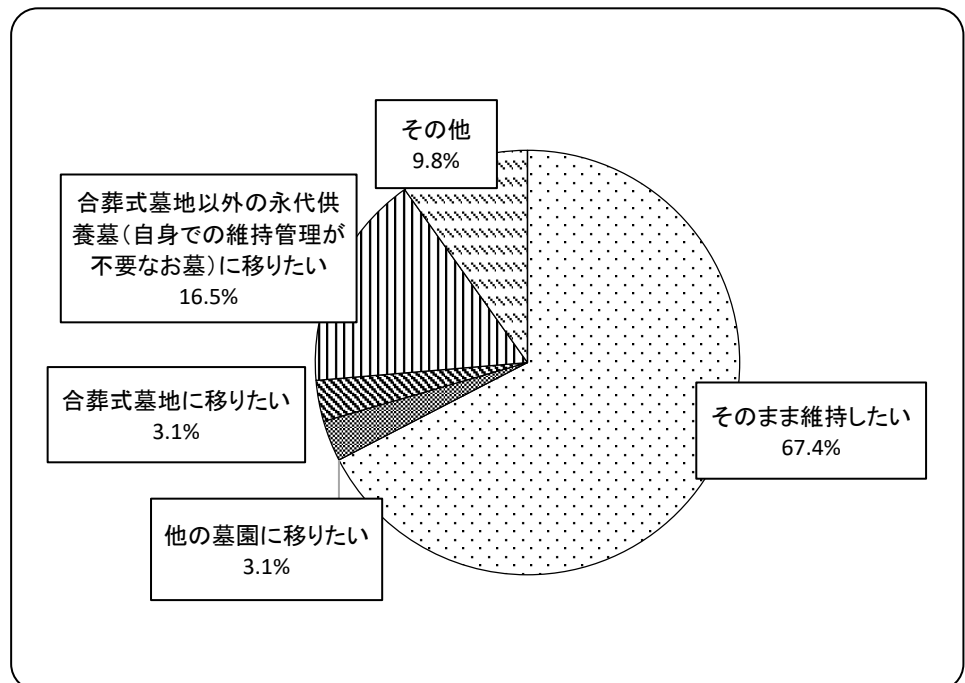
なお、同じく自身での維持管理が不要な「合葬式墓地に移りたい」とした人は3.1%であった。

	選択項目 (N=224)	回答数	構成比
1	そのまま維持したい	151	67.4%
2	他の墓園に移りたい	7	3.1%
3	合葬式墓地に移りたい	7	3.1%
4	合葬式墓地以外の永代供養墓（自身での維持管理が不要なお墓）に移りたい	37	16.5%
5	その他	22	9.8%
	計 (回答総数)	224	100.0%

[5 その他]

【主な回答】

- 子どもにまかせる。
- 墓じまいしたい。
- わからない。



《改葬の場合に遺骨を移すお墓の種類》

問 41. 問 40 で「2 他の墓園に移りたい」「3 永代供養墓に移りたい」「4 合葬式墓地などに移りたい」と回答された方に伺います。遺骨を移す先について、次のうち、どの種類のお墓を希望しますか。 【選択は1つ】

※上記設問文章について、誤りがございました。以下のとおり訂正してお詫び申し上げます。

誤：「3 永代供養墓に移りたい」「4 合葬式墓地などに移りたい」

正：「3 合葬式墓地に移りたい」「4 合葬式墓地以外の永代供養墓（自身での維持管理が不要なお墓）に移りたい」。なお、この訂正によるアンケート集計・分析への影響はございません。

「よく分からない」が 25.5%と最も割合が高い。

「よく分からない」を除くと「寺院納骨堂（寺院の境内にある納骨施設）」が 19.6%と最も割合が高く、次いで「公営の納骨堂（堺公園墓地内納骨堂など、市町村が運営する納骨施設）」が 17.6%であった。

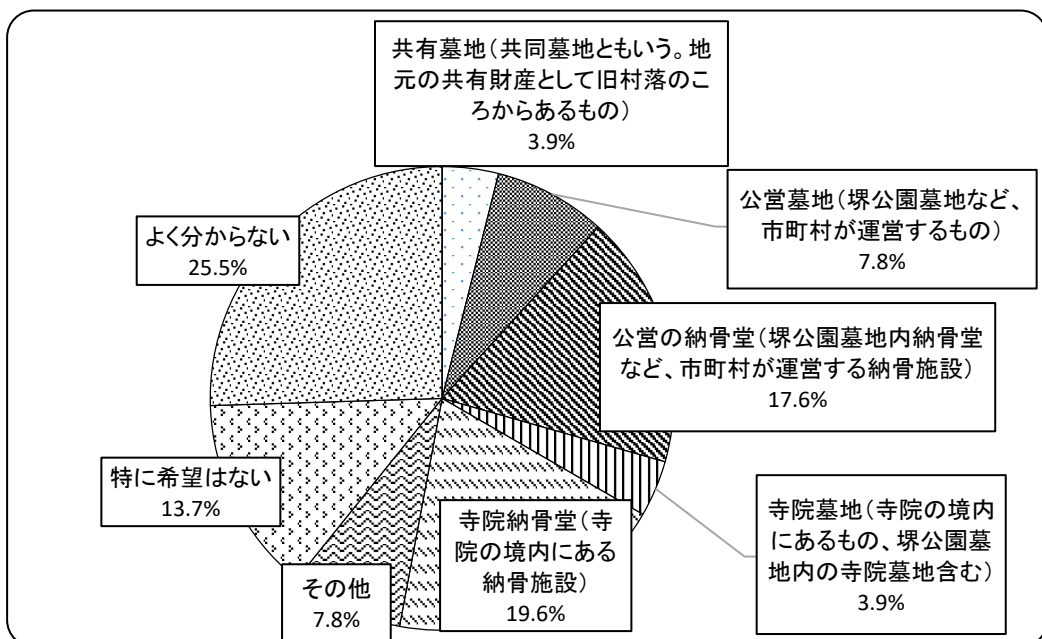
問 39 では約 70%の方が将来の維持管理に対して何らかの不安を抱いており、問 40 では改葬を望む方のうち約 70%の方が維持管理の不要なお墓を望んでいることから、維持管理の負担が少ない納骨堂を望む人が多くなっていると考えられる。

	選択項目 (N=51)	回答数	構成比
1	共有墓地（共同墓地ともいう。地元の共有財産として旧村落のころからあるもの）	2	3.9%
2	公営墓地（堺公園墓地など、市町村が運営するもの）	4	7.8%
3	公営の納骨堂（堺公園墓地内納骨堂など、市町村が運営する納骨施設）	9	17.6%
4	寺院墓地（寺院の境内にあるもの、堺公園墓地内の寺院墓地含む）	2	3.9%
5	寺院納骨堂（寺院の境内にある納骨施設）	10	19.6%
6	その他	4	7.8%
7	特に希望はない	7	13.7%
8	よく分からない	13	25.5%
	計（回答総数）	51	100.0%

[6 その他]

【主な回答】

- 無縁仏
- 永代供養墓地
- 散骨



《お墓の必要な時期》

問 42. 問 34 で「2 ない」と回答された方に伺います。

あなたが今後、ご自身またはご家族のお墓を必要とする時期はいつごろだと思いますか。

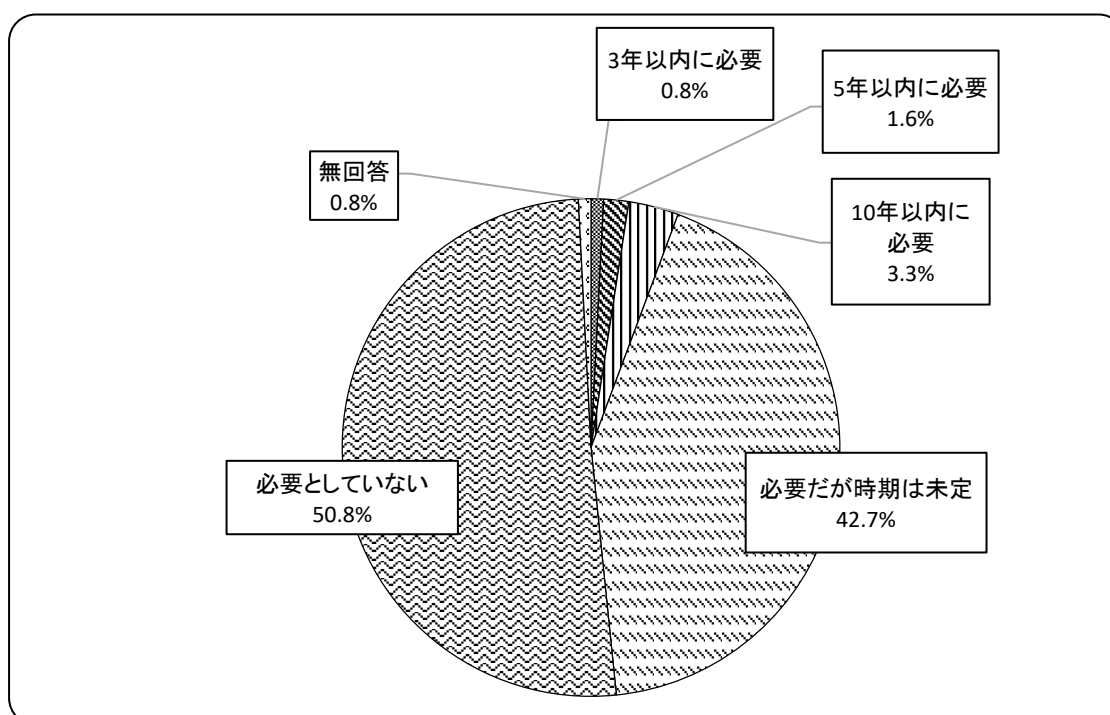
【選択は1つ】

「必要としていない」が 50.8%と最も割合が高く、次いで「必要だが時期は未定」が 42.7%であった。近年、全国的に、人口減少・少子高齢化などを受けてお墓の維持管理負担を軽減するために墓じまい（改葬）を行う人が増加傾向にある。本市においてもお墓の維持管理になんらかの不安を抱いている方が多くなっている（問 39 参照）。このような理由から、そもそもお墓を必要としていない方が多くなっていると考えられる。

お墓を必要としている方（選択肢 1～5 と回答した方）のうち、「必要だが時期は未定」と回答した方は、80%を越えており、この理由については問 43 にて考察する。

なお、「すぐに必要」、「3 年以内に必要」といった早急にお墓を必要とする人は 1.0%未満となっている。

	選択項目 (N=246)	回答数	構成比
1	すぐに必要	0	0.0%
2	3 年以内に必要	2	0.8%
3	5 年以内に必要	4	1.6%
4	10 年以内に必要	8	3.3%
5	必要だが時期は未定	105	42.7%
6	必要としていない	125	50.8%
7	無回答	2	0.8%
	計 (回答総数)	246	100.0%



《お墓を必要とする理由》

問 43. 問 42 で「1 すぐに必要」「2 3 年以内に必要」「3 5 年以内に必要」「4 10 年以内に必要」「5 必要だが時期は未定」と回答された方に伺います。お墓を必要とする理由は、次のどれにあたりますか。 【複数選択可：いくつでも】

「家族のために、お墓を確保しておきたい」が 51.3%と最も割合が高く、次いで「自分のお墓を、生前に用意しておきたい」が 35.3%となっている。

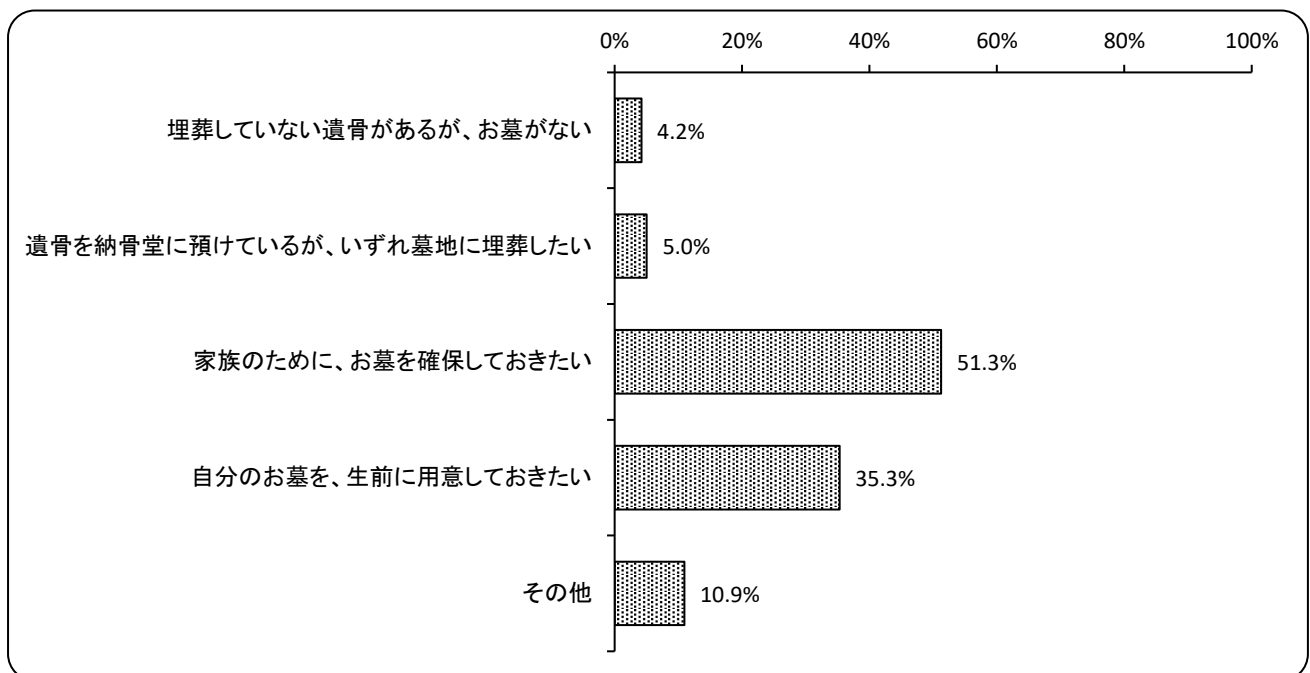
問 42 で「必要だが時期は未定」と回答された方がお墓を必要とする人のうち約 90%を占めている。墓地を必要とする理由を自身や家族のお墓を生前に用意しておきたいとする人が大半であることから、墓地が必要になる時期が明確に定まっていないということが読み取れる。

	選択項目 (N=119)	回答数	構成比
1	埋葬していない遺骨があるが、お墓がない	5	4.2%
2	遺骨を納骨堂に預けているが、いずれ墓地に埋葬したい	6	5.0%
3	家族のために、お墓を確保しておきたい	61	51.3%
4	自分のお墓を、生前に用意しておきたい	42	35.3%
5	その他	13	10.9%
	計 (回答総数)	127	106.7%

[5 その他]

【主な回答】

- 時期がくれば必要
- 後を見てくれる人がおらず困っている。
- 遺骨はお墓に入れるものだから



《遺骨を収蔵するために取得したいお墓の種類》

問 44. 問 42 で「1 すぐに必要」「2 3 年以内に必要」「3 5 年以内に必要」「4 10 年以内に必要」「5 必要だが時期は未定」と回答された方に伺います。次のうち、どの種類のお墓を希望しますか。

【選択は1つ】

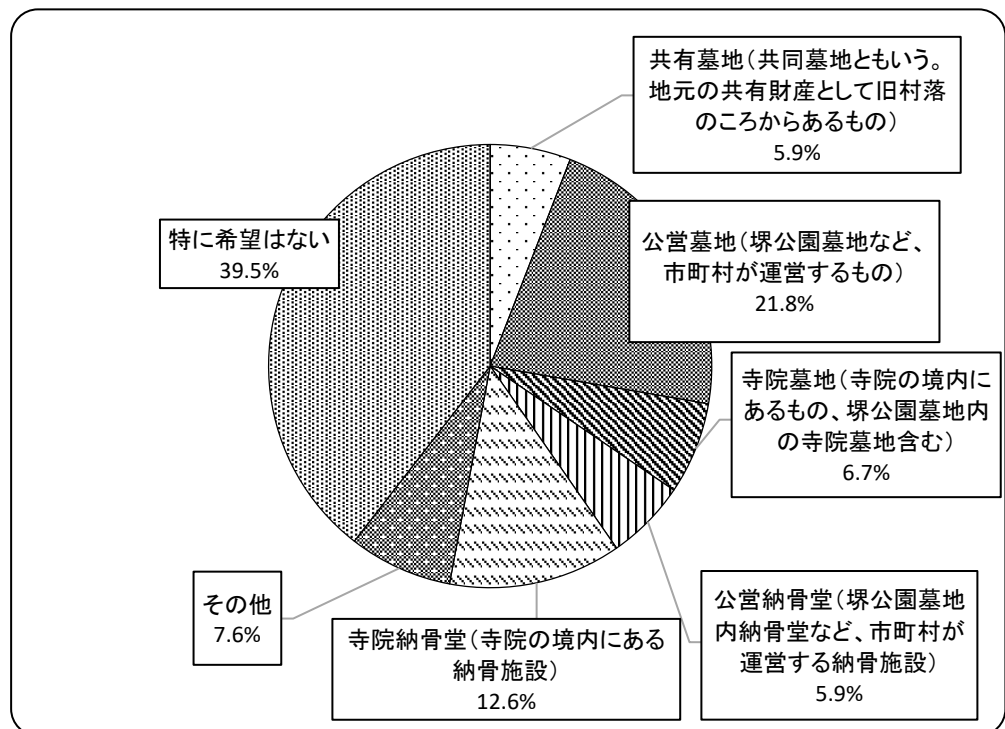
「特に希望はない」を除くと、「公営墓地（塚公園墓地など、市町村が運営するもの）」が最も割合が高く、平成 24 年度調査時と同程度（H24:21.6%→R2:21.8% 0.2%増）であった。「共有墓地（共同墓地ともいう。地元の共有財産として旧村落のころからあるもの）」（H24:13.6%→R2:5.9% 7.7%減）、「寺院墓地（寺院の境内にあるもの、塚公園墓地内の寺院墓地含む）」（H24:13.6%→R2:6.7% 6.9%減）、「公営納骨堂（塚公園墓地内納骨堂など、市町村が運営する納骨施設）」（H24:11.4%→R2:5.9% 5.5%減）と回答された方の割合は平成 24 年度調査時から減少しており、一方で、「寺院納骨堂（寺院の境内にある納骨施設）」（H24:4.5%→R2:12.6% 8.1%増）は増加している。

	選択項目（N=119）	回答数	構成比
1	共有墓地（共同墓地ともいう。地元の共有財産として旧村落のころからあるもの）	7	5.9%
2	公営墓地（塚公園墓地など、市町村が運営するもの）	26	21.8%
3	寺院墓地（寺院の境内にあるもの、塚公園墓地内の寺院墓地含む）	8	6.7%
4	公営納骨堂（塚公園墓地内納骨堂など、市町村が運営する納骨施設）	7	5.9%
5	寺院納骨堂（寺院の境内にある納骨施設）	15	12.6%
6	その他	9	7.6%
7	特に希望はない	47	39.5%
	計（回答総数）	119	100.0%

[6 その他]

【主な回答】

- 樹木葬、自然葬
- 信仰にあった墓地
- 宅墓

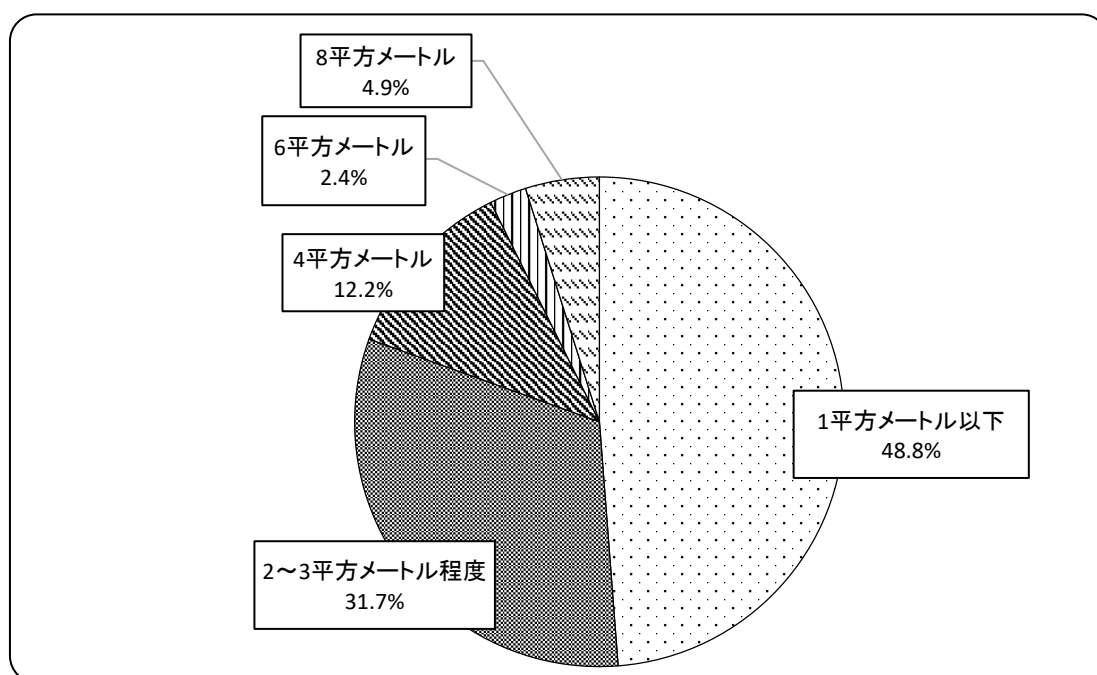


《取得したい墓地区画の規模》

問 45. 問 44 で「1 共有墓地」「2 公営墓地」「3 寺院境内の墓地」と回答された方に伺います。次のうち、どの規模の墓地区画を希望しますか。 【選択は1つ】

「1 平方メートル以下」が 48.8%と最も割合が高く、次いで「2～3 平方メートル程度」が 31.7%となっている。この 2 項目を合わせると全体の 80.5%を占めており、比較的小規模な墓地区画が望まれていることが読み取れる。

	選択項目 (N=41)	回答数	構成比
1	1 平方メートル以下	20	48.8%
2	2～3 平方メートル程度	13	31.7%
3	4 平方メートル	5	12.2%
4	6 平方メートル	1	2.4%
5	8 平方メートル	2	4.9%
6	12 平方メートル以上	0	0.0%
	計 (回答総数)	41	100.0%



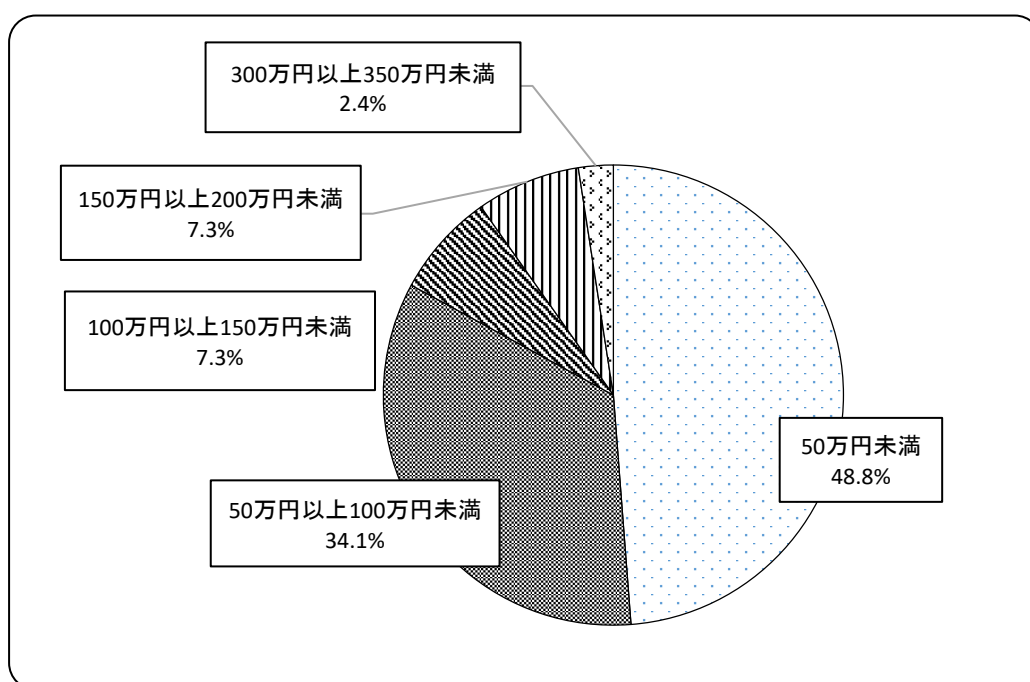
《墓地区画取得の予算》

問 46. 問 44 で「1 共有墓地」「2 公営墓地」「3 寺院境内の墓地」と回答された方に伺います。あなたが墓地区画（墓石などを含む一式）を選ぶとしたら、どれくらいの予算が適当だと考えますか。
【選択は1つ】

「50万円未満」が48.8%と最も割合が高く、平成24年度調査時（20.5%）から28.3%増加し、次いで「50万円以上100万円未満」が34.1%と平成24年度調査時（25.0%）から9.1%増加している。この2項目で全体の82.9%を占め、平成24年度調査時から大幅に増加（37.4%）していることから、墓地区画取得の予算が低くなっていることが読み取れる。

一般的に墓地区画の大きさと取得価格は比例することから、問45において小規模な墓地区画を希望する割合が高くなっていると推測できる。

	選択項目（N=41）	回答数	構成比
1	50万円未満	20	48.8%
2	50万円以上100万円未満	14	34.1%
3	100万円以上150万円未満	3	7.3%
4	150万円以上200万円未満	3	7.3%
5	200万円以上250万円未満	0	0.0%
6	250万円以上300万円未満	0	0.0%
7	300万円以上350万円未満	1	2.4%
8	350万円以上400万円未満	0	0.0%
9	400万円以上500万円未満	0	0.0%
10	500万円以上	0	0.0%
	計（回答総数）	41	100.0%



《お墓を取得するにあたって重視する点》

問 47. 問 42 で「1 すぐに必要」「2 3 年以内に必要」「3 5 年以内に必要」「4 10 年以内に必要」「5 必要だが時期は未定」と回答された方に伺います。お墓を選ぶときには、どのような点を重視したいと思いますか。 【複数回答可：2 つまで】

平成 24 年度調査時と比べて、「便利な場所にあること」(H24:54.5%→R2:58.8% 4.3%増)、「値段が適当であること」(H24:36.4%→R2:47.1% 10.7%増)が増加している一方で、「環境の良いところにあること」(H24:37.5%→R2:22.7% 14.8%減)、「お墓の供給者が信頼できること」(H24:29.5%→R2:26.1% 3.4%減)、「自分の信仰にあったものであること」(H24:13.6%→R2:6.7% 6.9%減)はいずれも減少しており、利便性や価格を重視する傾向が高まっていると読み取れる。

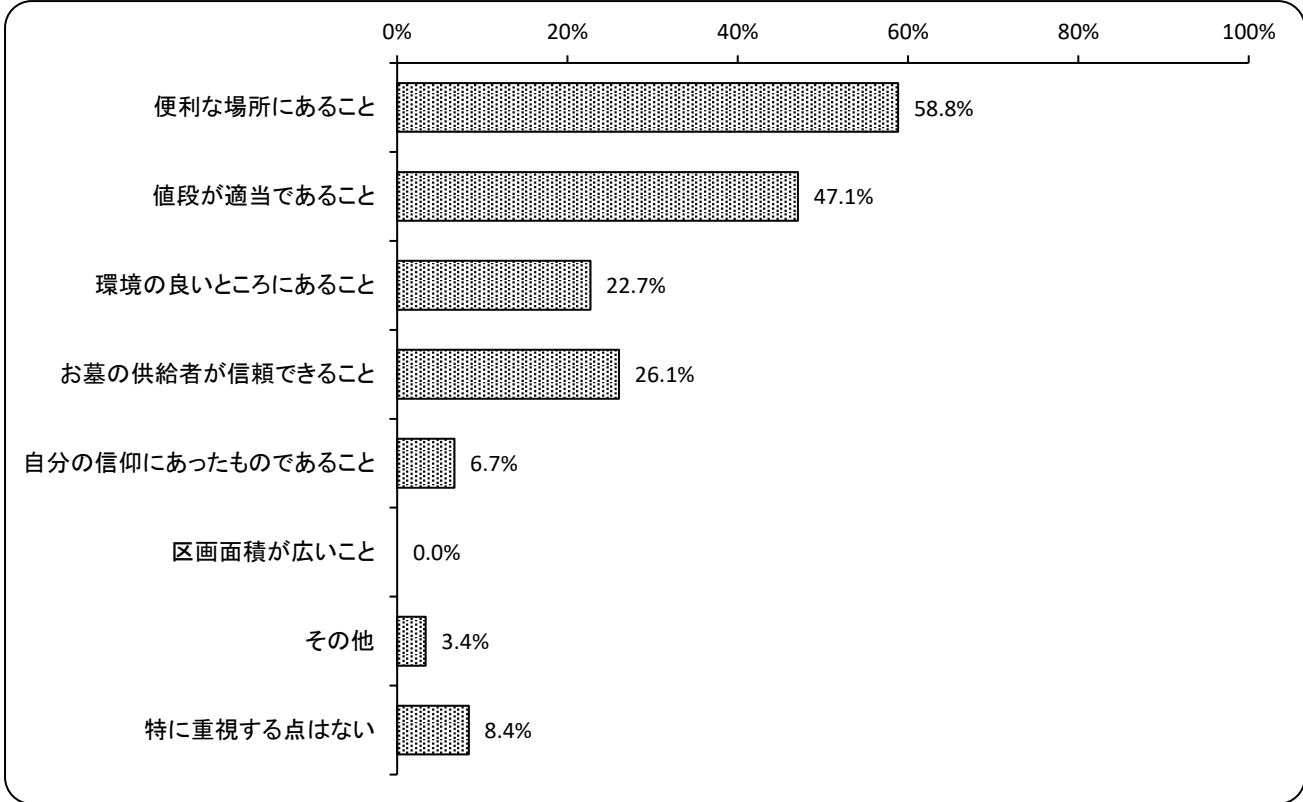
これらの傾向は、問 38 でお墓所有者のお墓に対する不満点の約 30%を「遠くて不便である」が占めていることや、問 45、46 で比較的小規模で価格の安い墓地区画を望む人が高いことの裏付けにもなっている。

	選択項目 (N=119)	回答数	構成比
1	便利な場所にあること	70	58.8%
2	値段が適当であること	56	47.1%
3	環境の良いところにあること	27	22.7%
4	お墓の供給者が信頼できること	31	26.1%
5	自分の信仰にあったものであること	8	6.7%
6	区画面積が広いこと	0	0.0%
7	その他	4	3.4%
8	特に重視する点はない	10	8.4%
	計 (回答総数)	206	173.1%

[7 その他]

【主な回答】

- お墓参りのしやすさ
- 宅墓
- お墓に入る人の意向



《お墓を必要としていない理由》

問 48. 問 42 で「6 必要としていない」と回答された方に伺います。お墓を必要としていない理由は、次のどれにあたりますか。 【選択は 1 つ】

「お墓のことで、子どもや子孫に負担をかけたくないから」が 41.6%と最も割合が高く、次いで「自分の死後、お墓の面倒をみる人がいないから」が 15.2%であった。

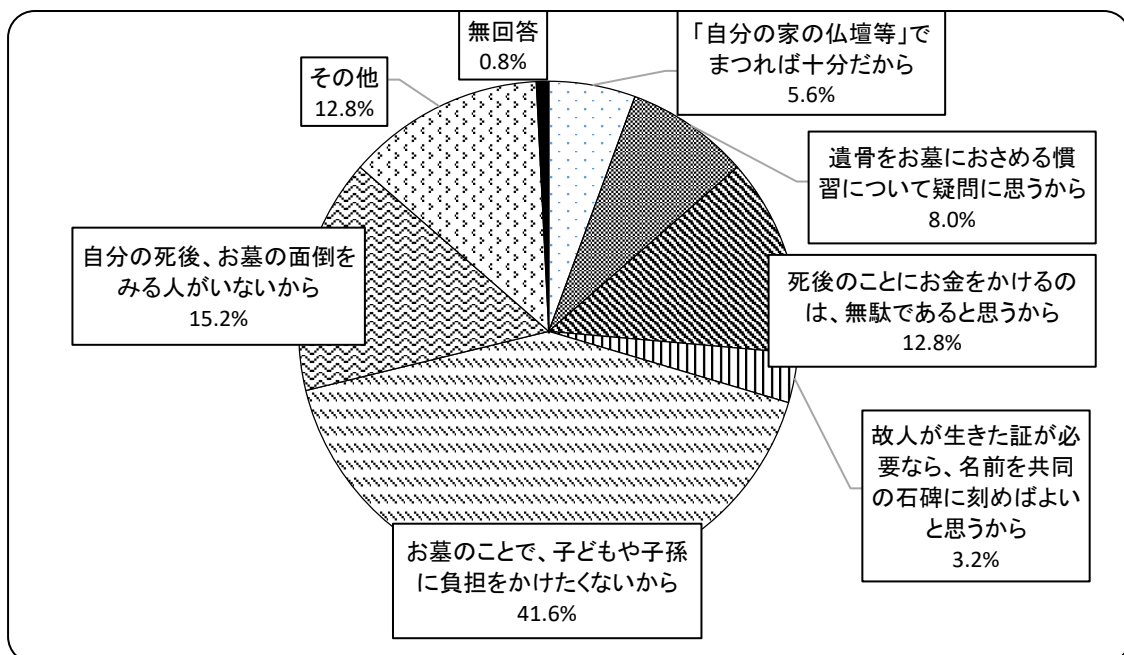
問 39 で墓地所有者の将来の維持管理への不安に関する質問においても、「子どもや子孫への維持管理の負担について、不安を感じている」が 50.9%、「自分の死後、お墓の維持管理をする人がおらず、不安を感じている」が 12.1%と、お墓を必要としない理由は墓地所有者の将来の維持管理への不安と同様の傾向を示していることが読み取れる。

	選択項目 (N=125)	回答数	構成比
1	「自分の家の仏壇等」でまつれば十分だから	7	5.6%
2	遺骨をお墓におさめる慣習について疑問に思うから	10	8.0%
3	死後のことにお金をかけるのは、無駄であると思うから	16	12.8%
4	故人が生きて証が必要なら、名前を共同の石碑に刻めばよいと思うから	4	3.2%
5	お墓のことで、子どもや子孫に負担をかけたくないから	52	41.6%
6	自分の死後、お墓の面倒をみる人がいないから	19	15.2%
7	その他	16	12.8%
	無回答	1	0.8%
	計 (回答総数)	125	100.0%

[7 その他]

【主な回答】

- 自分の年齢がまだ若いから
- 維持が面倒だから



(4) 合葬式墓地について

《合葬式墓地の必要性》

問 49. 合葬式墓地についてどのように思いますか。

【選択は1つ】

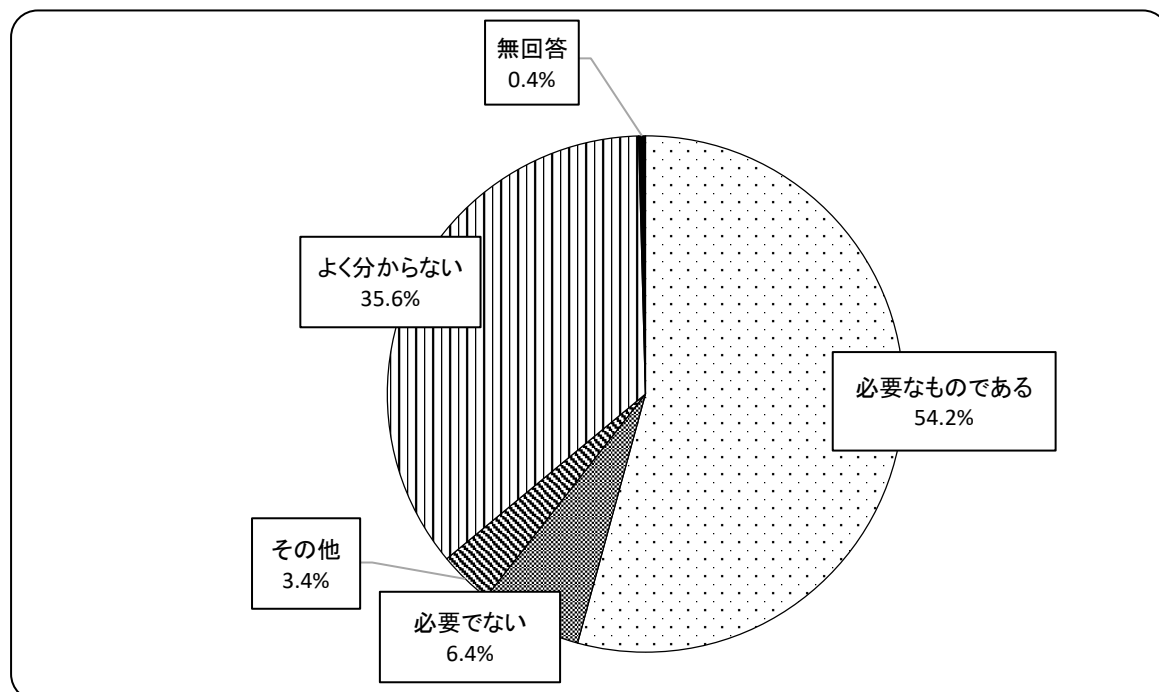
「必要なものである」が54.2%と最も割合が高く、次いで「よく分からない」が35.6%となっている。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	必要なものである	256	54.2%
2	必要でない	30	6.4%
3	その他	16	3.4%
4	よく分からない	168	35.6%
	無回答	2	0.4%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[3 その他]

【主な回答】

- 社会情勢（人口減少、独居、無宗教など）を考慮すると必要
- 個人の自由
- 費用負担が少ないのでよい。
- 在り方としてはいいと思うが必要とまでは言えない。



《合葬式墓地の利用意向》

問 50. あなた自身が合葬式墓地を利用することについてどのように思いますか。 【選択は1つ】

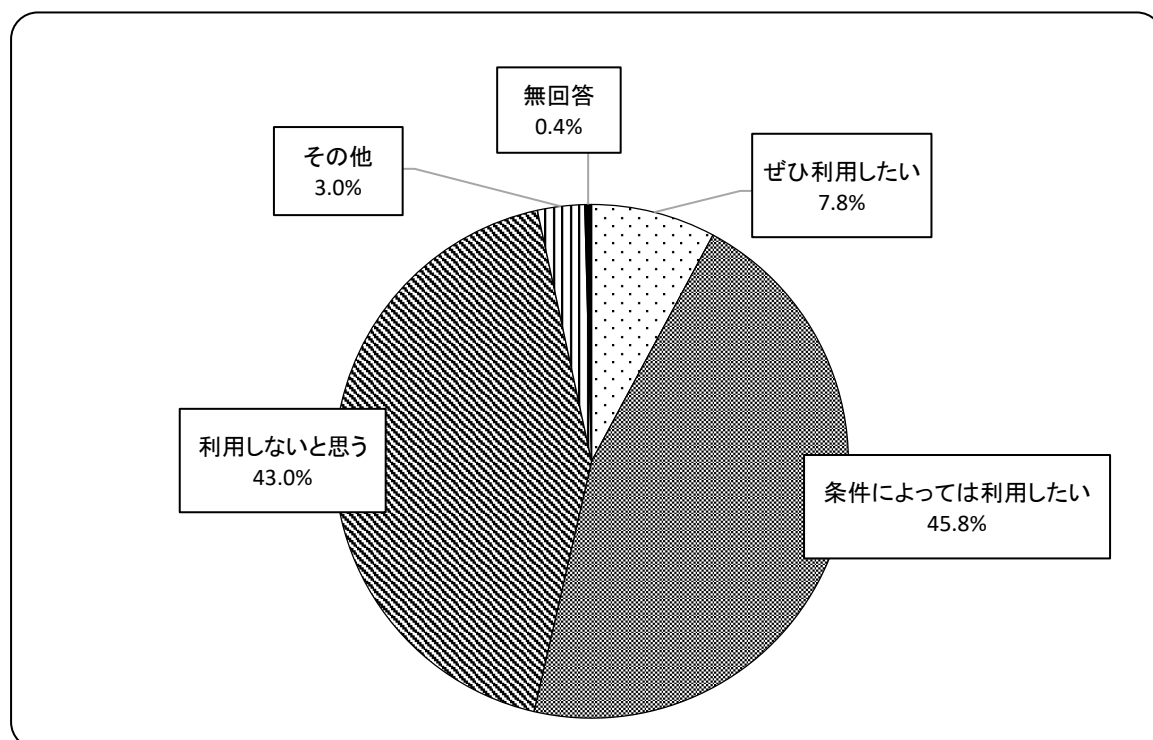
「条件によっては利用したい」が45.8%と最も割合が高く、次いで「利用しないと思う」が43.0%であった。利用したい人（「ぜひ利用したい」(7.8%)と「条件によっては利用したい」(45.8%)をあわせた割合）は53.6%であり、条件にもよるが、半数以上は利用に関心を示している。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	ぜひ利用したい	37	7.8%
2	条件によっては利用したい	216	45.8%
3	利用しないと思う	203	43.0%
4	その他	14	3.0%
	無回答	2	0.4%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[4 その他]

【主な回答】

- わからない、考えていない。
- お墓を持たないのならよいと思う。
- 残された家族の気持ちも考慮しておきたい。



《合葬式墓地における遺骨の取り扱い》

問 51. 合葬式墓地における、遺骨の取り扱いについて、どのように思いますか。

【選択は1つ】

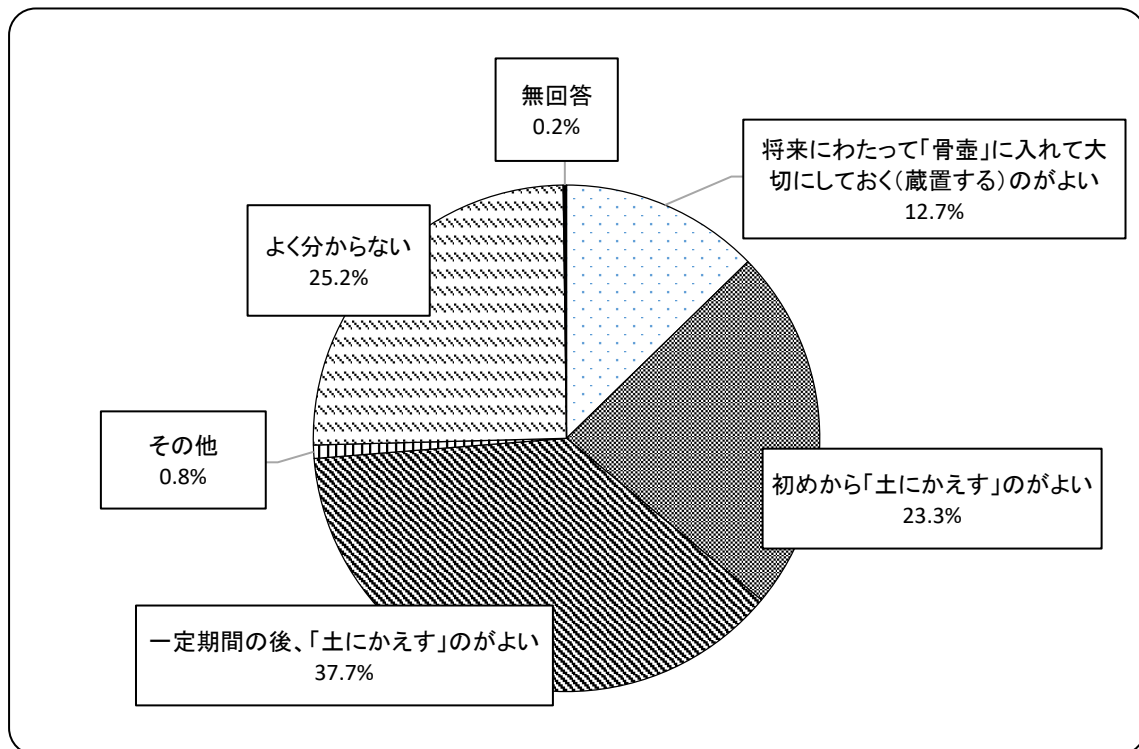
「よく分からない」25.2%を除くと、「一定期間の後、「土にかえす」のがよい」が37.7%と最も割合が高いが、平成24年度調査時（48.5%）から10.8%減少している。次点の「初めから「土にかえす」のがよい」は23.3%と、平成24年度調査時（19.7%）から3.6%増加している。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	将来にわたって「骨壺」に入れて大切にしておく（蔵置する）のがよい	60	12.7%
2	初めから「土にかえす」のがよい	110	23.3%
3	一定期間の後、「土にかえす」のがよい	178	37.7%
4	その他	4	0.8%
5	よく分からない	119	25.2%
	無回答	1	0.2%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[4 その他]

【主な回答】

- 管理者次第
- 管理を考えれば、初めから土にかえすほうが墓地担当者の負担が減り良いが、時代を経て、合同墓地の移転等で問題が発生しないかとのデメリットも感じる。



《合葬式墓地の種類》

問 52. 合葬式墓地には様々な形式があります。堺公園墓地内に整備する場合、次のどれがよいと思いますか。 【選択は1つ】

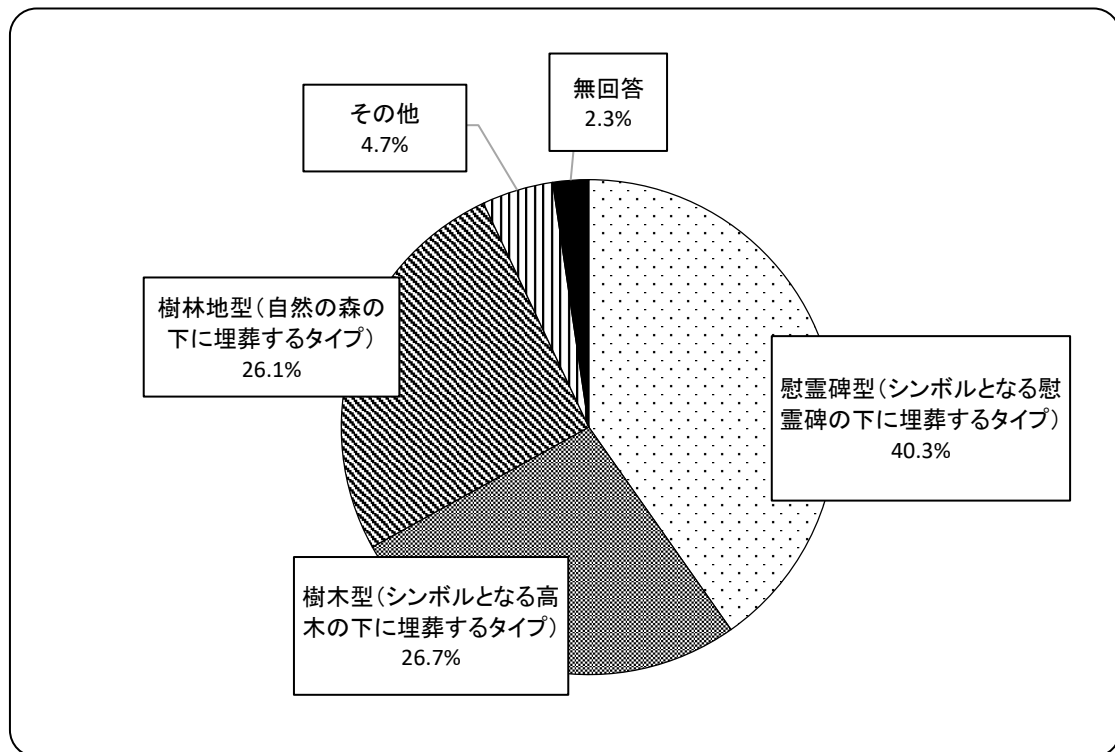
「慰霊碑型（シンボルとなる慰霊碑の下に埋葬するタイプ）」が40.3%と最も割合が高く、次いで「樹木型（シンボルとなる高木の下に埋葬するタイプ）」が26.7%であった。
シンボルとなるものがある形式が好まれている。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	慰霊碑型（シンボルとなる慰霊碑の下に埋葬するタイプ）	190	40.3%
2	樹木型（シンボルとなる高木の下に埋葬するタイプ）	126	26.7%
3	樹林地型（自然の森の下に埋葬するタイプ）	123	26.1%
4	その他	22	4.7%
	無回答	11	2.3%
	計（回答総数）	472	100.0%

[4 その他]

【主な回答】

- 分からない、考えたことがない。
- 何種類かつくってほしい。
- そんなことより違うところに費用をかけるべき、そもそも堺公園墓地内への設置は反対
- 慰霊堂建設、遺骨を集合して仏像をつくる。



《慰霊碑型（安置室併用型）の安置期間》

問 53. 遺骨を安置室（納骨壇など）で保管する期間は、次のどれがよいと思いますか（期間終了後は、遺骨だけ合葬室に共同埋葬します）。 【選択は1つ】

「一時安置期間は不要（最初から合葬室に共同埋葬）」が40.7%と最も割合が高く、次いで「10年」が19.9%であった。

問 51 では「一定期間の後、「土にかえす」のがよい」（37.7%）が最も割合が高いが、本設問では「一時安置期間は不要（最初から合葬室に共同埋葬）」が最も高い。

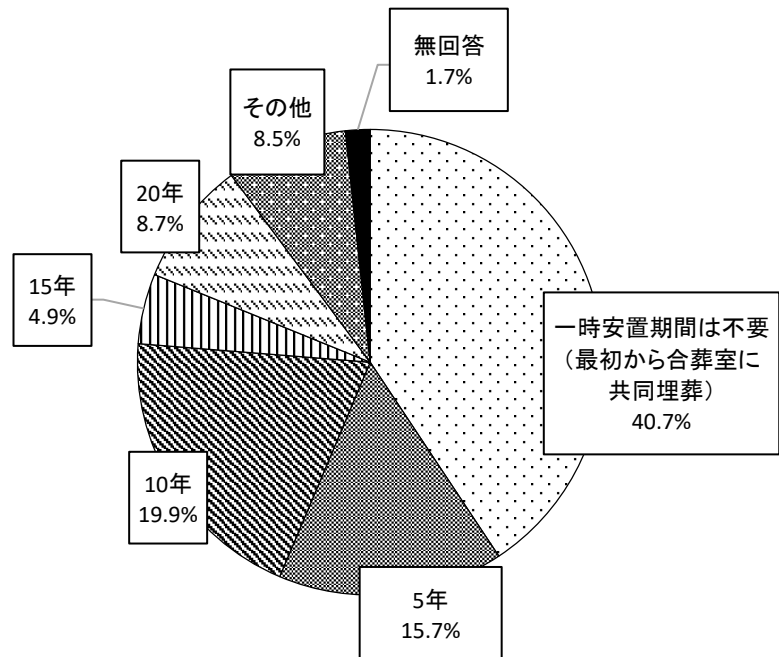
一時安置期間を設ける場合、「5年」、「10年」と選択肢の中では比較的短い期間を望む人が多い。

	選択項目（N=472）	回答数	構成比
1	一時安置期間は不要（最初から合葬室に共同埋葬）	192	40.7%
2	5年	74	15.7%
3	10年	94	19.9%
4	15年	23	4.9%
5	20年	41	8.7%
6	その他	40	8.5%
	無回答	8	1.7%
	計（回答総数）	472	100.0%

[6 その他]

【主な回答】

- 分からない
- 希望に合わせる
- 30年
- 永久保存



《合葬式墓地での故人の生きた証として必要なもの》

問 54. 合葬式墓地では、故人の生きた証として何が必要だと思いますか。

【選択は1つ】

「埋葬されている人たちの氏名や生年月日などを刻んだ「石碑」が必要である」が44.9%と最も割合が高く、次いで「合葬式墓地にまつられていれば、特に必要なものはない」が35.4%であった。

合葬式墓地での生きた証として、埋葬されている人たちの氏名や生年月日などを刻んだ石碑や名簿などの需要があることが読み取れる。

	選択項目 (N=472)	回答数	構成比
1	埋葬されている人たちの氏名や生年月日などを刻んだ「石碑」が必要である	212	44.9%
2	合葬式墓地にまつられていれば、特に必要なものはない	167	35.4%
3	その他	18	3.8%
4	よく分からない	72	15.3%
	無回答	3	0.6%
	計 (回答総数)	472	100.0%

[3 その他]

【主な回答】

- 名簿、管理簿等がよい。
- ネームプレートがよい。
- 故人や遺族の希望による。

